

注目アスリート

かごしま国体・かごしま大会が開催される2020年に向けて、活躍が期待される選手をご紹介します。



全国障害者スポーツ大会
卓球(身体・知的・精神)



鹿児島城西高校

末吉 航大 選手

H30年度
全国障害者スポーツ大会2位

サーブが決まる瞬間は快感

中学校入学時に先輩から「団体戦に出たいから卓球部に入部して!」と頼まれたのが競技を始めたきっかけです。小学生の頃は体育が苦手だったので少し迷いましたが、「もしかしたらできるかも」という思いと家族の勧めもあり入部しました。始めた頃は返球だけで精一杯でしたが、今では徐々にサーブで回転やスピードなどの変化をつけられるようになりました。自分の思い描いたサーブがきまった瞬間は快感です。

かごしま大会に向けて

昨年の福井大会は初めての全国大会でとても緊張しました。結果は2位の銀メダル。全国のレベルの高さを痛感し、悔しい思いをしました。かごしま大会での金メダルを目標に練習しています。練習時間や内容を工夫し、筋力トレーニングも取り入れてパワーアップしていきます。



国民体育大会
ウエイトリフティング



県体育協会

脇田 勇平 選手

H30年度
全日本大学対抗ウエイトリフティング選手権大会3位

誰にでもチャンスがある

高校2年生で競技を始めた当時は、全国大会などで入賞できるレベルではありませんでした。しかし、大学でも競技を続け、日々トレーニングに励んだ結果、大学4年生の時に全国大会で3位入賞を果たすことができました。

自分の成長が記録として目に見えてわかるどころと、誰にでも上を目指せるチャンスがあるところが、ウエイトリフティングの魅力だと思います。

楽しんで結果を残したい

昨年は九州ブロック大会で結果を残せず、国体に出場することができませんでした。この悔しさを生かし、かごしま国体では上位入賞できるよう、練習に励みます。地元開催の国体に選手として出場するのはなかなかできない経験なので、大会を楽しみつつ、しっかりと結果を残したいと思います。



国民体育大会
バレー(6人制)



鹿屋体育大学

大工園 彩夏 選手

H30年度
アジアジュニア女子選手権大会(U-19)1位

思いやりが大切なスポーツ

チームの中で、リベロという守備専門のポジションに就いてます。スパイカーとは異なり、相手に動きを阻まれることなくプレーできるところが魅力です。バレーボールは皆でボールをつなぐチームスポーツなので、チームメイトへの思いやりが重要です。普段の生活でも、チーム内のコミュニケーションを大切にしています。

悔しさをバネに次の国体へ

昨年の福井国体では優勝を目標にしていたのですが、5位という悔しい結果でした。もっと鹿児島の順位アップに貢献したかったという気持ちが大きかったです。今年も県の代表選手として国体に出場しますので、昨年の悔しさをバネに、結果を残して自信をつけたいと思います。そして、来年かごしま国体での優勝を目指し、日々の練習を頑張ります。

問い合わせ先

燃ゆる感動かごしま国体・かごしま大会実行委員会事務局 Tel.099-286-2874

かごしま国体・大会

検索